

平成15年度 施策評価表

○総合計画における位置付け等

平成15年 6月20日記入

基本目標	Ⅱ ▼ ゆとりある みどり豊かな環境共生都市をめざして	施策コード	22310
政策名 (章)	第2章 水やみどりの保全と創造に努めます	評価担当課	環境保全部 ▼
基本施策名 (節名)	第3節 みどりの保全と創造		みどり対策課
施策名	みどりの保全と拠点づくりの推進	課長名	柳川 勝

1 施策の概要・目的

良好な緑地や樹林地について、緑地保全地区等の指定の拡大など計画的な確保を図るとともに、市民との協働により、地域の特性を活かした適正な管理、活用を進めていく。

2 施策の現状

平成14年1月に「下九沢内出緑地保全地区」を指定するなど、これまでに、全体で177haの緑地保全地区等の指定を行った。また、平成14年度に「木もれびの森保全・活用計画」を策定し、本計画に基づくボランティアとの協働による維持管理活動などに取り組みはじめた。

3 総事業費及び人員

(1) 施策に要している総事業費

213,785 千円……構成事務事業全体の事業費合計(人件費含む)

(2) 市民1人当りの事業費

347 円/人……人口は、**61.6** 万人とした。(平成15年4月1日現在人口)

(3) 全施策中の順位(事業費)

この施策の市民一人当たり事業費は、全123施策のうち、第 **68** 番目です。

(4) 施策に要している人員

2.31 人……構成事務事業全体の人員合計

4 評価指標

指標	指標名および指標式	指標の意図	現状値と目標値			目標
			現状	目標	達成度	目標年度
指標1	緑地保全地区等指定率 指定面積÷指定目標面積×100	みどりの基本計画で設定した指定目標の達成率をみる	現状	177 ha 単位	0 50 100	目標年度
			目標	200 ha 単位	88.50%	27
指標2	横山丘陵緑地・道保川緑地整備率 整備済面積÷全体面積×100	都市計画緑地の整備の進捗状況を見る	現状	4.4 ha 単位	0 50 100	目標年度
			目標	46.6 ha 単位	9.44%	達成度
指標3	緑地保全基金現金残高率 現金残高÷基金現在高×100	基金の運用状況を見る	現状	1.3 億円 単位	0 50 100	目標年度
			目標	20 億円 単位	6.50%	達成度

5 必要性…市民ニーズに合っているか、行政需要の変化に対応しているか

温暖化防止などの地球環境の問題が意識されるようになり、自然環境の保全の必要性はますます高まっている。また、自然とのふれあいに対するニーズも増えており、市政世論調査における地域に欲しい施設では、公園・緑地が毎回1位となっている。

6 有効性…期待される効果があがっているか

昭和47年度から概ね5年ごとに実施している「緑の実態調査」における市内全体の緑被地率を見ると、毎回5%前後の減少を示してきたものが、平成13年度の結果では1%と減少傾向が鈍化しており、緑地保全施策の展開の効果がでてきていると思われる。

7 効率性…費用対効果が優れているか、もっと大きな効果が得られるものはないか

「木もれびの森」や「東林ふれあいの森」においては、それぞれの保全活用計画に基づいた維持管理を市民との協働によって進めることにより、地域の活動拠点となっていく効果が期待できる。また、今後、除草など維持管理業務の委託発注を一定のエリアでまとめて行うなど見直しを行い、より効率的な管理に努めていく。

8 市民満足度調査結果からの分析(平成15年度調査)

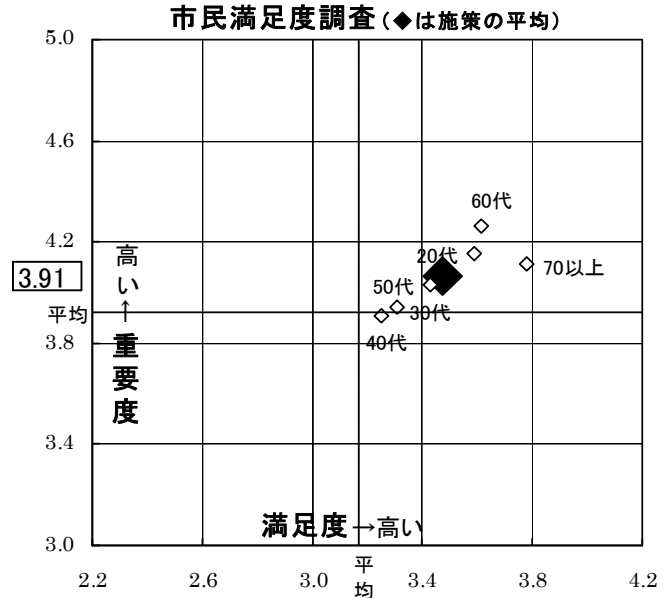
◆この施策の満足度は、3.474で、調査した51施策の中で2番目です。

◆この施策の重要度は、4.063で、調査した51施策の中で20番目です。

◆この施策の改善要望度は、0.417で、調査した51施策の中で30番目です。

◇年齢別にみると、満足度は60歳代以上及び20歳代が高く、30歳代及び40歳代で低くなっています。同様に重要度でも60歳代以上及び20歳代が高く、30歳代及び40歳代で低くなっています。満足度が高いほど重要度も高い傾向がみられます。

市民満足度調査は、基本施策51項目(節)について調査しています。したがって、上位の基本施策が同じ場合は同じ内容となっています。(「〇総合計画における位置付け等」参照)



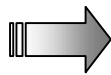
9 課題…施策を実現するにあたり、課題となっていること等

みどりの骨格として位置付けている「横山丘陵緑地・道保川緑地」については、公有地化の進んだ地区から順次整備を進める計画だったが、姥沢地区(H4)、日金沢上地区(H6)の整備で中断しており、整備手法等の見直しが課題となっている。

緑地の取得を円滑に進めるために設置された緑地保全基金については、土地保有残高が非常に高く、基金本来の活用目的に影響を及ぼしている。また、中核市移行に伴い、都市緑地保全法に基づく土地買入れに係る財政負担の増大が見込まれ、緑地保全地区等の指定拡大の時期等を検討する必要がある。

10 今後の方向性(一次評価)

今後の方向
<input type="checkbox"/> 拡充する
<input type="checkbox"/> 現状維持する
<input checked="" type="checkbox"/> 見直し



説明及び具体的内容

横山丘陵・道保川緑地の整備については、地区ごとの整備にとらわれず、ある程度公有地化の進んだ場所を、スポット的に自然環境に重点を置いて整備するなど、市民の財産である保全された緑地について、部分的な活用を図りながら、「みどりのさんぽみち」としての整備につなげていく。緑地保全地区等の指定拡大では、八瀬川沿い緑地約10ha、勝坂周辺緑地約7haが候補となっているが、拙速な指定は避け、当該地域における開発圧力等の状況を見ながら指定時期を検討し、当面は緊急的に保全確保が必要な場合についてのみ緑地保全基金による取得等の対応を図っていく。

11 2次評価

説明
<input type="checkbox"/> A
<input checked="" type="checkbox"/> B
<input type="checkbox"/> C

12 外部意見

説明

緑地は二酸化炭素の吸収など地球環境にとって大切であることを市民に充分周知するとともに、緑地の積極的な確保が実行できるような施策展開を図るべきである。なお、整備に当たっては、自然環境の保全に努め、施設整備は抑制するよう検討すべきである。

施策名 みどりの保全と拠点づくりの推進

施策コード 22310

構成事務事業一覧

事務事業名	担当課	評価年度	決算額 (千円)	人員 (人)	評価の概要								施策中の優先順位	
					総合評価	達成度	必要性	効率性	代替性	満足度	有効性	公平性		今後の進め方
森林等病虫害防除経費	みどり対策課	15	130,390	0.00	A	A	B	B	/	/	B	B	継続	7
緑地保全用地等維持管理費	みどり対策課	15	2,165	0.10	A	B	A	B	/	/	A	A	継続	4
特別保全地区維持管理費	みどり対策課	15	17,252	0.11	B	A	A	B	/	/	A	A	継続	5
特別保全地区奨励金	みどり対策課	15	980	0.06	A	B	A	A	/	/	A	A	継続	6
木もれびの森等保全活用計画策定事業	みどり対策課	15	1,426	0.19	AAA	A	A	A	/	/	A	A	完了	/
木もれびの森づくり事業(相模原中央緑地)	みどり対策課	15	7,087	0.10	A	A	A	B	/	/	A	A	完了	/
木もれびの森づくり事業(相模原近郊緑地特別保全地区)	みどり対策課	15	22,735	0.17	A	A	A	B	/	/	A	A	継続	1
ふれあいの森づくり事業	みどり対策課	15	9,051	0.50	A	A	B	B	/	/	A	A	継続	3
緑の実態調査・解析経費	みどり対策課	14	13,367	0.50	AA	A	A	A	B	B	B	/	完了	/
ふれあいの森保全・活用モデル事業	みどり対策課	15	1,855	0.08	AAA	A	A	A	/	/	A	A	完了	/
市民緑地維持管理費	みどり対策課	15	7,477	0.50	A	A	A	A	/	/	A	A	継続	2

合計 11 事務事業

213,785 千円 2.31 人 平成14年度評価:達成度、必要性、効率性、有効性、代替性、満足度
 平成15年度評価:達成度、必要性、効率性、有効性、公平性